

花みずき

令和5年度
発行
やかげ女性連絡協議会
題字：山岡治喜元矢掛町長

女性が活躍する場は 風通しがよい

やかげ女性連絡協議会
運営委員長 岡本 緑

女性が中心となって活動する協議会が、7年間の空白期間を経て、多くの方々の尽力により、再び矢掛町に発足しました。『矢掛町合併50周年記念誌』年表に【1995(平成7)年10月、やかげ女性連絡協議会設立】の記載があることに、当時の山岡治喜町長の強い思いを感じるとともに、この協議会設立の意義を再認識しました。私が関わったのは平成22年度か

らですが、それ以前の多くの女性の活動が今日につながっています。喜ばしいことに、やかげ女性連絡協議会の活動の一つ「男女共同参画社会の推進」に対し、町長より協働のまちづくり部門で表彰されました。

の中で議論するのではなく、「同じ人間である」という概念が社会通念として通用するようにならなければならない。女性が声が少しでも皆様に届くように、今後もやかげ女性連絡協議会の活動を着実に進めていきたいと強く思います。

やかげ女性交流会

矢掛町で自主的に活動する9団体の出演で開催された「やかげ女性交流会」。肌寒い日でしたが、多くの来場者で盛大でした。大正琴やミュージックベル、フラダンスなど様々な発表があり、美しい音色や華やかな踊りに魅せられました。また、「環境問題」や「男女共同参画」について考える貴重な機会にもなりました。



した。フラダンス、日本舞踊の優雅な踊りに魅せられました。消費生活問題研究協議会のクイズでは、ゴミの出し方を再確認できました。

女性が企画し、意見を出し合い、参加し、事業を推進することにより、振り返り、改善点を出し

年月	内容
5月29日	総会・講演会
6月15日	矢掛探索「西方院」「大光院」
9月16日	男女共同参画推進セミナー
11月19日	矢掛探索「福武邸」
11月25日	第12回やかげ女性交流会
2月3日	町長さんをお困りさわやかトーク
4月10日	機関紙「花みずき」第25号発行
6・9・12・3月	議会一般質問傍聴
役員会	8回
運営委員会	8回

私は、三弦華弾として三味線の演奏で参加しました。グループのメンバーは年齢も様々で、普段は先生に各自稽古をしてもらっています。この会に参加するために時間を合わせ、合同練習をしてきました。和やかな雰囲気の中で、「もっとこうしよう」と心を合わせ、一つの形にしていくのは楽しい時間でした。

よい方向に進んでいると思います。また、農業も高齢化による地域計画策定、災害時の一人暮らし・高齢者の避難対応のマニュアル作成、歴史的建造物の維持管理など、町議の方々の前向きな姿勢が感じられました。

ことは、町政の喫緊の課題であり、そのためにも若者の考えを聴く場を増やすことが必要です。議会を傍聴して、町内一律でなく、地区が抱える問題に応じた支援に目を向けてもらいたいと感じました。より多くの方が傍聴されたいと思います。

表彰状

賞状は多年にわたり矢掛町の男女共同参画社会づくりの推進に大きく貢献されたその功績は誠に顕著であり、その功績をたたえ、令和5年度「山岡治喜賞」を授与いたします。

令和5年11月10日
山岡 敬



令和5年度 運営委員

矢掛公民館生活部	川上美恵子
美川公民館生活部	三宅 晃江
三谷公民館生活部	江尻知代子
山田公民館生活部	西野美由紀
山田公民館生活部	水川 章子
山田公民館生活部	坪井 幸枝
川面公民館生活部	池田 輝美
中川公民館生活部	妹尾 美紀
小田公民館生活部	信長 華
やかげ要約筆記サークル	谷本 悦子
やかげ要約筆記サークル	岡本 緑
やかげ要約筆記サークル	田中 美子

議会 傍聴

議会傍聴で気になったのは、少子化、高齢化、若者の町外流出による人口減少です。今年例年になく猛暑でした。水泳授業がバスの送迎により、B&G海洋センターで行われました。来年度から全小学校がB&Gでの水泳になること。

子どもを守るためにもよい方向に進んでいると思います。また、農業も高齢化による地域計画策定、災害時の一人暮らし・高齢者の避難対応のマニュアル作成、歴史的建造物の維持管理など、町議の方々の前向きな姿勢が感じられました。

安心して住める町にする。若者が留まる・戻る。これは、町政の喫緊の課題であり、そのためにも若者の考えを聴く場を増やすことが必要です。議会を傍聴して、町内一律でなく、地区が抱える問題に応じた支援に目を向けてもらいたいと感じました。より多くの方が傍聴されたいと思います。

(江尻知代子)

講演会「認知症ケアパス」

講師 地域包括支援センター
池田 果穂さん

「認知症」はよく耳にするけれど、「認知症ケアパスとは？」というのが最初の印象でした。

いざ家族が認知症になったら、これからどうしようかと不安になります。その時、手助けをしてくれるのが「認知症ケアパス」というガイドブックです。中には、「認知症について」や「利用できる医療や介護サービス」などが分かりやすくまと

められています。「認知症は早期発見」。また、認知症の方への対応の仕方として大切なのが、「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」の3つだと教えてもらいました。

近年高齢化が進み、認知症が他人事でなくなっている状況の中、矢掛町の取組について学ぶ機会になり、とてもよかったです。(谷本悦子)

紫陽花の咲く6月に、矢掛探索を行いました。まず、伽藍山の西側にある大光院へ。天平9(737)年行基菩薩によつて、極楽寺並びに十二坊が開創され栄えていた話から、五坊が移転して東極楽寺、七坊が移転して西極楽寺となり、論争や改称の後、今の姿の大光院、西方院となつたことでした。本尊は創建当時のものと伝えられていたそうです。

令和6年まで3年間に渡り、弘法大使空海ご誕生1250年祭をされているとのこと。高野山の思い出に行ってみては！とのことでした。

そして、西方院へ。歴史を感じる建造物や、仁王像を観せていただきました。住職の話も含め、近くにいなながら、知らなかった矢掛の古い歴史を間近に知ることができて、貴重な楽しい時間となりました。(西野美由紀)

11月、県と町の重要文化財指定「福武家住宅」を見学しました。

福武家住宅は、安土桃山時代の大名・毛利の家臣對馬守元重を先祖とする代々の庄屋でした。天保7(1836)年に庭瀬藩の板倉家領の大庄屋となりまして。(田中美子)

矢掛探索

去年に続き、矢掛町江良にある備中寺院2か寺伽藍山西極楽寺の大光院(住職志田恵弘)と西方院(住職樹下嘉人)を巡りました。

矢掛町中心部から南方を見上げると伽藍山がそびえています。その山頂に、天平9(737)年、行基菩薩によつて極楽寺本堂並びに十二坊が開創されましたが、年月を経て現在の2か寺のみになったそうです。大光

院住職の丁寧な話に加え、おいしい麦茶、瓦せんべいをいただきました。庭が美しく、秋から冬には山茶花が咲き乱れるとのことでした。

続いて西方院へ。本堂は昭和10年頃に譲り受けられたもので、客殿は火災に遭い、その後再建されたそうです。寺の歴史を詳しく話してくださり、有意義な一日となりました。皆様も是非お立ち寄りください。(坪井幸枝)

となりまして。住宅は、約4700平方メートルの屋敷を土塀で囲み、母屋(主屋)、長屋門、湯殿、廁、土蔵、水見櫓などの建物が残っており、江戸時代から明治時代に建てられたものです。母屋は、逗子2階建て、入母屋造りの瓦葺きで、東側に式台玄関があり、苔むした立派な庭に面しています。

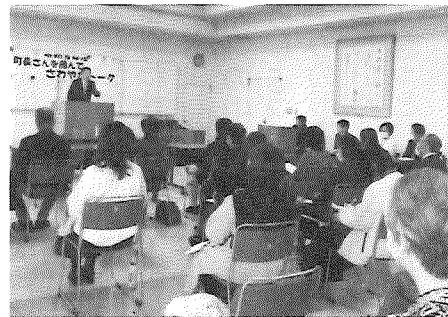
南東側入り口を入った部屋には、水墨画で描かれた襖絵に目を見張ります。襖の上部には、長い槍が何本も掲げてありました。

東側の玄関を入った部屋には、違い棚、床の間、水墨画があり、その立派さに圧倒されました。母屋の北東にある湯殿の風呂桶には、別の所で沸かした湯を運んできて使ったそうです。

地元には、立派な福武家住宅が現存することを誇りに思います。これから守っていかなくてはと思います。(田中美子)

山岡敦町長、山縣幸洋副町長を迎え、始まった「さわやかトーク」。

平成24年度、65歳以上、障害者等を対象に矢掛町地域福祉バスの運行が始まった。年間1万5千人近い利用があったが、利用者から改善要望が寄せられる。更に、店の廃業や郊外移転により、買い物に困難をきたす状況に陥る。利用者は10年経って3分の1に減少。買い物に行きたいが、その手段がない人を町として、どう支援してもらえるか。この質問に対して、次のような回答でした。現在進行中の交通手段としては、



左端の方がガイドの徳永睦志さん

さわやかトーク

買った。年間1万5千人近い利用があったが、利用者から改善要望が寄せられる。更に、店の廃業や郊外移転により、買い物に困難をきたす状況に陥る。利用者は10年経って3分の1に減少。買い物に行きたいが、その手段がない人を町として、どう支援してもらえるか。この質問に対して、次のような回答でした。現在進行中の交通手段としては、

○路線バス、井原鉄道、タクシー

○高齢者、障害者等に向けたふれあいバス

○タクシー券配布の範囲拡大

男女共同参画推進セミナー

「モモタロー・ノー・リターン」の朗読(桃から生まれてきたのが女だ。たちの話)から始まりました。朗読が終わると、4人のグループに分かれ、感想をもとに議題を出し、話し合いました。

ある程度年配の方は、男女での仕事の役割分担が決まっている。今の若い人たちは決まっていな。できる人がすればいいとのこと、炊事・洗

濯・子育てなど男の人がしている時代になっている。お年寄りがおられる家庭では、昔からの決まり事があり、なかなか変えられないとのこと。全体で、今は男も女もなく、できる人ができる事をする。昔ながらの決まり事も、話し合いをし、少しずつ変えていけばいいと思います。(川上美恵子)

編集後記

令和6年は元日の震災で大変な幕開けとなりました。しかし、コロナ禍は収束しつつあり、女性連の活動は充実したものであります。

私は、矢掛探索で訪ねた大光院のご住職のお話をきっかけに高野山を訪れ、神秘的な空気に触れることができました。

今年度女性連の活動を支えてくださった皆様、ありがとうございました。(水川章子)